



さいたま市介護支援専門員協会
ロゴマーク

STARTER

Vol,24

2011 年度冬号

平成23年度さいたま市介護支援専門員協会 合同研修会

「サッカーからのメッセージ」「感動の一瞬」

開催日時 平成23年10月28日(金) 14時00分～16時30分

開催場所 与野本町コミュニティセンター 多目的ルーム(大)

「平成23年度さいたま市介護支援専門員協会 合同研修会」は、さいたま市保健福祉局福祉部介護保険課長 佐藤宗之氏をはじめ、講師に大宮アルディージャの清雲栄純氏をお招きし、「サッカーからのメッセージ」「感動の一瞬」について講演が行われた。

まず、佐藤氏よりご挨拶があり、「これからも交流の機会を作り、さいたま市介護支援専門員協会と協力していくこと」を述べられた。

次に、宮本会長より行政との交流会も4年目を迎えたこと、11月

11日に介護フェスタが開催されるので、地域の方にも多くご参加いただき、福祉についてもと知っていただく良い機会でもあるので、ご協力をいただきたい等のお話があった。

講演は、清雲氏より、サッカーを通して人との関わり方、人の見方、人のあり方について話された。清雲氏は、現役時代に日本代表で42試合に参加する等の活躍をされた後、日本代表のコーチとなり、三浦知良選手、ゴン中山選手

などが活躍したワールドカップ・アジア地区最終予選「ドーハの悲

劇(1993年10月28日、カタールのドーハで行われた日本対イラクの試合)」について話しをされた。

他スタッフから試合のメンバーを尋ねられたときに主要な人の名前を出したが、監督は活躍できていない選手を起用した。

試合後、監督に理由を尋ねると、人には「奮起型」「逃避型」「一点集中型」「複数同時指向型」があり、その選手は「逃避型」で、このまま自信を無くさしてしまうと今後の本人の為、国にとっても大きな損失と判断し起用したとのこと。起用したことにより得点を挙げ、その後も日本代表、Jリーグでも活躍した。

人には、それぞれ持った性格、個性がある。その個性を見分け、その場だけで判断せず、その人に

あった対応、ゆつくりと見守っていくことも大切である。
全ての人に心を開く「オープンマインド」・相手が何を言っているのかを聞く「コミュニケーション」を用い、自分の知識を教えるのではなく、答え等を導くこと



「コーチング」が大切である。

ご利用者に対し心を開き、相手の言葉にきちんと耳を傾け、気持ちを受け入れる。孔子の言葉に「徳は孤ならず必ず隣あり」（人の為、社会の為にとやっている人と人が寄ってくる）との言葉をいただき、ご利用者、介護者への関わり方のヒントをいただいたように感じた。

サッカーも11人+監督、コーチ、サポーター、地域が一丸となって行わ

れるものであり、ケアマネジャーにとってもご利用者、介護者、行政、事業者、地域と連携を持ち、取り組みなくてははいけないものであり、サッカーと共通する部分が多くあることを感じた。

今回の講義で、人との関わり方、見方などを学ぶことができ、その人らしさ、個性を尊重していく、ご利用者、介護者の気持ちに添えるような支援をしていきたい。



岩槻区・見沼区合同ケアマネサロン

「からだのしくみ く私たちがからだ」

開催日時 平成23年9月1日（木） 15時00分～16時30分

開催場所 岩槻駅東口コミュニティセンター 会議室

第1回岩槻区見沼区合同サロンは、「さいたま市社協訪問看護ステーションおのみや」の齋藤知子氏をお招きして、他の区で開催され評判の高かった「からだのしくみ」についてご講演いただいた。

岩槻区から11名、見沼区からは15名の参加があった。

体の仕組みを、各器官ごとにわかりやすく説明していただいたが、興味深かった内容をいくつか挙げると、まず、骨

は人間の体を形作り支えるとともに、内臓を保護している。生まれたときから350個もの骨があるが、成長とともにくっついていき、18歳頃には206個になってしま

う。骨折箇所が多いのは、肋骨、手首、大腿骨、背骨である。心臓は1分間で約5リットルもの血液を体中に送り出している。一日約7200リットル。風呂30杯分に相当するとい

う。握りこぶし一つほどの大きさの臓器であるが、

一時も休まず動き続ける。また、携帯電話の電波が悪影響を及ぼすと言われてきたが、実際には影響はないとのこと。しかし、心因的に具合が悪くなる人もいるので、ペースメーカー装着者の近くでの携帯電話の使用は配慮する

必要がある。

血管は動脈、静脈、毛細血管に分けられている。動脈は体の深いところにあり、目に見えるのはほとんど静脈である。これらの血管をつなげると、なんと地球2周半の長さになる。

桜区・中央区ケアマネサロン

「訪問介護事業所との交流会」

開催日時 平成23年9月16日（金）

開催場所 さいたま市プラザウエスト 第2セミナールーム

今回の桜区・中央区合同ケアマネサロンは、訪

問介護事業所と居宅にお

声かけし交流と情報交換を行った。

訪問介護事業所は7事

業所14名のサービス提供責任者等が、またケアマネは17名が参加し、日頃気になっていたり話をざつとばらんに話し合い活発な意見交換の場となった。

まず簡単な自己紹介のあと緊張を和らげるため

○×ゲームを行った。ケアマネからの質問に対し訪問介護事業所の方に「○」か「×」の札で答えていただく。「苦手なケアマネがいる!？」という質問では札を出しあぐね、笑いを誘い和やかな空気が流れた。



そこで各事業所から特色をはじめ職員体制・自立支援法対応の有無・自由契約サービスなどについて説明をいただいた。いずれも研修や職員間の情報共有、ケアマネとの連携などに力を注いでした。

その後、区ごとに分かれて通院介助における院内介助の考え方、家族同居世帯の家事援助、ケアマネから訪問介護事業所に休日に連絡が必要な場合の連絡の取り方、一般的なおむつの当て方とは？等の情報交換がなされ、区分変更は月初めにやってほしいなどの要望もあがった。

参加者からは「盛り上がり面白かった」「普段はケアマネと研修を行うことなど無いので良い機会を得た」と感想が聞か

れた。

今回行ってみて訪問介護事業所同士で顔を合わす場面が少ないことがわかり、今後も事業所同士およびケアマネと顔の見える関係を築く交流の場として活用していくことが地域力向上に役立つと締めくくられた。

最後に当会未加入のケアマネには今日の体験参加をきっかけとして入会のお誘いをした。閉会後もしばらくの間、熱心な交流が続いた。



浦和区ケアマネサロン

「行政との意見交流会」

開催日時 平成23年10月24日(月) 10時00分～12時00分
開催場所 埼玉会館 5階 5B会議室

ケアマネジャー業務に携はる方々、それも課長、係長と各関係機関との連携は不可欠。連携の中にはサービス事業者、医療機関、近隣などさまざま。ただ必ず連携するのには実はなかなか話す機会が少なくところが行政機関だったりしないだろうか。監査の時や住宅改修、認定調査の際に注意や指導を受けるばかりで苦手意識もあるかもしれない。

そこで浦和区ケアマネサロンでは、行政職の方々と、それも課長、係長と各関係機関との連携は不可欠。連携の中にはサービス事業者、医療機関、近隣などさまざま。ただ必ず連携するのには実はなかなか話す機会が少なくところが行政機関だったりしないだろうか。監査の時や住宅改修、認定調査の際に注意や指導を受けるばかりで苦手意識もあるかもしれない。

見沼区ケアマネサロン

「ケアマネ業務におけるリスクの再確認」

～事例を通しての検討会～

開催日時 平成23年11月16日(水) 14時00分～15時30分
開催場所 はるおか広場(さいたま市農村広場)

今回のサロンは「ケアマネ業務におけるリスクの再確認」をテーマに、

まずは、浦和区役所高

齢介護課課長 石田忠利氏、介護保険係 井野英成氏、高齢福祉係係長

兼山和夫氏から新設の特

別養護老人ホームの案内

など介護保険のサービス

に加え、普段なかなかケ

アマネジャーとして関わ

ることがない「介護ボラ

ンティア制度」や「うん

どう教室」「シルバー作

品展示会」「介護者サロ

ン」など介護サービス以

外のサービスについても

案内があった。

その後はフリートーク

で審査会や担当者会議、

特別養護老人ホームへの

質問などが数多く聞かれ

などが聞けてよかった」

「普段はケアマネ業務の

ことを話すことがない。

ケアマネ同士で話せてと

ても頼もしい」「1人ケア

マネで心細かった。情報

交換ができてよかった」

など、ケアマネジャーと

しての横のつながりの大

切さについての感想が多

く聞かれた。初めて参加

した方からも「異動して

きて何も分からなかった

が、このような会があり

浦和区の情報が聞けてと

てもよかった。」など、普

段から1人での仕事にな

りがちなケアマネ業務で



施設介護支援専門員研修の報告

「23年度第2回研修会」

開催日時 平成23年9月17日(土) 13時30分～16時00分
開催場所 埼玉精神神経センター 作業療法室(中央区)



埼玉精神神経センター
歯科衛生士の大久保喜恵
子氏による研修会。「何
故、口腔ケアが必要な

くなり、介護者自身が苦
情センター、区役所など
に連絡を直接行う。
サービス事業所、区役
所からの連絡が遅れて
入った。介護者が「体調
不良になった」との理由
で、介護者自身の損害
賠償の相談あり。参加者
に状況を加味しケアマネ
ジャーの対応、立ち位置
などについて話し合いを

の？」と題し、今回もオー
ブン形式で実施。30名以
上の方が参加した。
前半は、高齢者の口腔
ケアについて、講師が日
頃従事するデイサービス
における実践の様子をビ
デオやスライドなどを活
用して紹介された。
途中、T&K株式会社
の方により、「口腔保湿剤
「オーラルバランス」の
紹介があり、参加者が実
際に薬剤を試すことがで

行った。
「区役所が入ったこと
により責任の所在など判
断がしづらくなった」「ケ
アマネジャーがあまり深
く入り込まず、距離を
置くことも必要」「なぜ、
事業所、区役所は早めに
連絡をいただけなかった
のか」「ケアマネジャー
は中立的立場であるこ
と」「事業所変更時間に

きた。
後半は、講師の指導の
もと、全員が参加して口
腔体操を行った。おなじ
みのバタカラ体操なども
説明を受けながら体験し
たことで、その意義を理
解し知識を深めることが
できた。
定員以上の申込みがあ
り、急遽会場を変更して
の研修会となったが、ア
ンケートからは「(口腔
体操の) 実習が特に参考
になった」「(施設でも)
実際に今日から行ってみ
ます」など、うれしい意
見が多数聞かれ、有意義
な研修会であった。

がかかったことで介護者
の負担が多くなったので
はないか」等、色々な意
見が出た。
また、担当不在時の
対応についての質問に
は、「契約時に緊急時の
対応として他のケアマネ
ジャーも業務を遂行する
ことを伝えている」「何
時でも連絡がとれるよう
な対応をしている」「1



人事業所の場合は対応等
の遅れ、相談する方が居
ないので、電話にて相談
している」等の意見が
あった。
他に、「電話の対応が良
くないことで介護者が相
談所に連絡をした」「サー
ビス事業所が担当ケアマ
ネジャーのことを良く言
わない」と相談センター
に連絡した例、「訪問介護

や他のサービスがサービ
スに入り忘れることも一
種のリスクではないか」
との意見も聞かれた。
業務をこなす内に、リ
スクに対して漠然とした
ものしかなく、このよう
なサロン会を開催するこ
とでリスクに対しての再
確認、意識が向くきつ
けとなる良い経験となっ
た。

平成23年度 さいたま市「介護の日」フェスタ

「安心は地域の絆から」

開催日時 平成23年11月11日(木) 13時00分～16時00分
開催場所 プラザノース(北区)

11月11日は「介護の日」
介護についての理解と
認識を深め、介護従事者、
介護サービス利用者及び
介護を行っている家族等
を支援することを目的
に、国民への啓発活動を
重点的に実施するための
日として厚生労働省が定
めた日である。「いい日、
いい日」と覚えやすく、
親しみやすい語呂合わせ
になっている。
昨年に引き続き、今
年もさいたま市の主催
で「安心は地域の絆から」
をキーワードに【さいた
ま市「介護の日」フェス
タ】が開催された。フェ
スタには、当協会をはじめ、
さいたま市社会福祉
協議会、さいたま市介護
保険サービス事業者連絡
協議会、さいたま市老人
福祉施設協議会、さいた
ま市介護老人保健施設連
絡会の5団体が共催とし
て参加し、雨天にもかか



ならず、一般来場者も含め、約200名の参加があった。

フェスタは、さいたま市の清水勇人市長のご挨拶から始まった。

現在、さいたま市の人口は123万人（人口規模、全国で9番目）、65歳以上の方々の割合は、19%を超える状況（10年前12.8%）。10年後は26%、20年後は30%を超え、この高齢化のスピードは、日本ではトップレベルで進んでいくと予測される。

さいたま市では、健康で安心して、生き甲斐をもって暮らせる地域社会作りを目指しており、様々な事業の推進に取り組んでいる。

昨年10月から「シルバー元気応援ショップ」がスタートした。買い物、飲食、美容院、勉強、スポーツなどの場所で、65歳以上の方への割引や特典が得られる制度。

そして今年の10月から「介護ボランティアポイント制度」がスタートした。65歳以上の方が介護施設などで、ボランティア活動をを行った場合、ポイントを付与し、それが一定以上貯まったら、ボランティア活動の奨励金や福祉団体への寄附に交換できる制度。

清水市長は、「人間の幸せはやはり健康で、そして長生きができること」とそのためには、「健康で元気で長生きをしていただくための環境作り、いざというときの安全、安心作り、急激に進む高齢化の中、私たちは、いろいろな形で皆さんと連携をしながら地域の中で支え合い、絆を作って、この高齢化時代をしっかりと対応していきたい。」と述べられた。

講演会 第1部は、高齢者運動器疾患研究所代表理事、伊奈病院整形外科部長 石橋英明氏より

「足腰きたえて介護予防〜いつまでも歩ける力と膝の痛みのお話〜」について行われた。

日本は世界の長寿国であり、寝たきり・要介護者は急速に増加しており、要介護者の2割（女性3割弱）は運動器が原因。運動機能は、40代から加速して落ちていくため、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の要因にもなる。石橋氏は、「健康な長生きには、運動器の健康が重要」と強調。この講演では、ロコモ予防の講話だけで



なく、参加者全員でロコモーショントレーニング（ロコトレ）の実演も行われた。

具体的には、1分間の「片足立ち」や「スクワット」では、「大きな古時計」（ゆっくりとした動きをするためにリズムをとりやすいため）の歌に合わせて行った。また、ウォーキング、水中歩行、自転車、ストレッチ、ラジオ体操、卓球などの運動も勧められている。

笑いもあり、実演もあり、飽きさせない内容は大変印象深く、「身体機能を維持していくためにも、ロコトレを普段の生活に取り入れていきたい」と意欲的な声が多数聞かれた。

講演会 第2部は、さいたま市こころの健康センター保健師 岡藤智美氏より「岩手県宮古保健所での派遣活動」について行われた。

岡崎氏は、4月4日〜8日までの5日間、被災地で活動された。主な活

動内容は、避難所の衛生対策や、感染症予防、健康相談、健康チェック、各関係機関の調整などを行い、避難所の皆さんが、自立した避難生活を送れるように支援することが、今回の派遣活動の役割。

避難所生活では、集団生活を強いられているため、特に、感染症を予防することが大事。感染症が流行すると、疾患のある方や抵抗力の弱い方は、命に関わる危険性があり、健常者が動けなくなることで避難所の労働力低下につながる。

避難所での高齢者の特徴的な反応として、「怪我や病気になるやすい」「睡眠や食欲など基本的



欲求の低下」「喪失感が深く、将来を思い描ける機会が増える」「迷惑をかけたくないという思いから、辛さを隠したり、支援を拒否する」「経験・知恵があり、危機的状況をたくましく乗り切る力がある」などがあつた。また「認知症の悪化、せん妄の発症」「孤立、ひきこもりがち」などの変化もみられた。

岡崎氏は、避難生活で健康を維持するためには、「役割を持つことが大切、何もしないでいると体は弱り、気持ちも落ち込んでいくので、自分でできることを見つけること」そして「一人で抱え込まないで誰かに話をすること」と強調。

いつ来るかわからない災害の備えとして、「家の中の安全対策」「非常持ち出し品の用意」「日頃の交流」「避難場所の確認」「避難訓練への参加」等、日頃から心がけておきたい。

会員H

季節は秋から冬になり、事務所の近所の木々は紅葉し、落ち葉の掃除が忙しくなっています。イチョウは黄色に紅葉するのが遅く、黄色く色づくといっぺんに葉が散るそうです。どさっと音がするくらい一晩で落葉するそうです。桜と似たところがありますね。

自分事ですが、9月から市民後見人の講座に、東京大学に月2回講習を受けに行ってます。

イチョウ並木と安田講堂を目の前にして、昔学生運動で放水を受けてテレビに映っていたのが目の前にあると、思っていたより小さいことに驚いたり、校舎が古くなり時間の経過がはっきりわかります。小学生だった自分が50代の中年おばさんです。

さて後見人についてですが、高齢者が詐欺に騙されて、大事な老後の資金がとられてしまうことで、生きる意欲がなくなってしまうことが問題になっています。

実はわたくしの利用者さんも、8年前に定期を解約して200万円送金してしまい、騙されたとわかり「自分はばかだ」と激しく落ち込んで、その後病状も悪化して半年くらいで逝去してしまうことがありました。銀行でも、「息子さんが同居しているなら帰宅してから直接渡していいのではないか」といわれたそうですが、銀行の閉店時間が近かったので、あわててしまい、今しないと間に合わないと無理やり振り込んだそうです。

お金が無くなったこともショックですが、自分の判断

の甘さに嫌になったと話していました。いつまでも自分はしっかりして、親の役目を果たせると考えていたのが、息子に怒られてしまい、嫁に対しても立場逆転で居所がなくなり、布団からでなくなっていました。

人生は最後まで人の世話にならないことがいいこと、自己決定できなくなったらおしまい、人ではないような風潮が多くなっています。先日も息子様が、人はどうやって死ぬのですかと聞かれて、なんて答えればいいのか無言になってしまった自分がいました。

自然な老化、自然な死ということが世の中から隔離されていると感じます。

以前学生だったときに、「生きる事は死ぬ事である」と聞いてさっぱりわからないと思いましたが、今は生と死は連続して生きてきたことがその人の最後になって歴史になります。最近は何となくわかるような気持ちになりました。人生の最後にこのような、ショックなエピソードが起こることをできる限り防いでいくためにも、後見人制度が日本に根付くようになると、私たちが安心した老後が迎えられると思いませんか。桜やイチョウも最後は人や大地が落ちた葉をあと片付けしています。最後は必ず、自分以外の人の世話になります。どの人が最後を手伝ってくれるかわかりませんが、生きてくる道で、最後を手伝ってくれる人がいる人生を送りたいですね。

あとがき

松のうちのにぎわいも過ぎて、おとそ気分から抜ける頃となりました。

今年は、さいたま市介護支援専門員協会 創立10周年を迎えます。通常総会及び記念式典の日程が決まりましたのでご案内致します。

ぜひ、足をお運びくださいますようよろしくお願い致します。

事務局より

会員の住所・事業所等登録事項に変更があった場合や入会・退会希望の場合は事務局までご連絡ください。

さいたま市介護支援専門員協会 事務局 野崎・西間木

(社福)さいたま市社会福祉協議会 大宮サービスセンター

電話番号 048 - 645 - 7470

FAX 048 - 645 - 7500

平成24年度 さいたま市介護支援専門員協会

「通常総会 及び 創立10周年記念式典」開催日のご案内

平成24年 5月26日(土)

さいたま市介護支援専門員協会 ホームページ

<http://www.saitamashi-keamane.jp>